

# 犠牲者非難と 人権感覚のアンテナ



現代社会にはさまざま  
な人権問題がありますが、  
それらを「知らない」「見  
ない」「考えない」とは、  
偏見や差別、人権侵害を生  
み出します。日常での「何  
気ない」「悪気ない」意識  
や行動が、人をおどしめ、  
苦しめる可能性があるの  
です。

たとえば、「いじめる側  
が悪い」と言いながらも、

が被害者にあるとする考  
え方を「犠牲者非難」とい  
います。加害者がいなけれ  
ば、被害者は生まれません。  
この当たり前のことを歪  
めてしまうのが、犠牲者非  
難なのです。

犠牲者非難は、被害者を

精神的に追い詰めます。被

害者は最初の被害による  
苦しみに加え、二重で苦し  
むことになります。

この犠牲者非難は、多く  
の差別、人権侵害でよく見

いじめられる側には「あな  
たがしつかりしないから」  
「テキパキしないから」  
「もっとがんばれ」「努力  
しろ」と言う人がいます。

差別を受けた人に対して  
も、「差別された側にも責  
任がある」という人がいま  
す。

受けられます。では、どう  
して犠牲者非難が生まれ  
るのでしょうか？

人は問題に直面したと  
き、どうしても自分を安全

な立場に置き、上から目線  
の言葉を言つてしまいが  
ちです。これは心理的な働  
きによるもので、整理のつ  
かない居心地の悪さや気  
持ち悪さを、何とかして解  
消しようとするためです。

「〇〇するから差別さ  
れるのだ」「〇〇だから差  
別されても仕方ない」とい  
う犠牲者非難も、このよう  
な心理的働きによるもの  
です。非常に短絡的に、間  
違った答えを導いてしま

う心理的メカニズムが働  
きます。

私たちも、偏見や差別、  
人権侵害に苦しむ人を、  
「何気なく」「悪気なく」  
追い詰めているかもしれません。  
「関係ない」という周囲の無関心さが

問題なのです。  
必要なのは、「人権感覚  
(人権侵害や差別をキャ  
チする感覚、感性)」のア  
ンテナ」を張ることです。  
人権感覚のアンテナはだ  
れもが持っているもので  
すが、なかには持っている  
ことに気づいていない人  
もいます。

〔参考〕人権感覚のアンテ  
ナって？（部落解放・人権  
研究所、人権啓発ビデオ作  
製委員会）



〔問〕教育委員会事務局  
人権・同和教育係  
電話 0943・32・0093  
(内線313)



# 広川町に残る城と館跡

## 長延村山王山城と城ノ尾城 その3

### 稻員氏が逃れた多久はどこ

現在のところ場所は特定できません。

『家勤記得集』によると、稻員氏は山王山城の落城後、背後の山伝いに東福寺谷に逃れ、本谷から萩尾山を越え、逆瀬谷に至りました。その後暫時休息し、未明のうちに北河内山を越えて豊後国へ入り、多々に蟄居したといいます。

また、鬼ノ口城主甘木家長は落城後、肥後国石村（現山鹿市）に逃れて蟄居しています。

このよう広川の武将たちは、肥後国に縁が深いこと

が分かります。何はともあれ敗軍の将、受け入れてくれる場所がなければ逃げ込むことは不可能です。

稻員氏の場合は、最後までと山王山城との関りに触れましたが、若干の補足をしておきます。

現在のところ、豊後国（現在の大分県）で多久と呼べる地名は見つかっていません。

豊後国ではなく、肥後国多久ではないか（『福岡県の地名』平凡社）と考えられるのです。

ちなみに川瀬城が落城した後、矢賀部大学が肥後国熊野度へ赴いています。戦功によって八百町を賜われる（横溝六郎遺文集）という縁の地ですが、

と、見つけることができます。

旧鹿本郡鹿北町（現山鹿市鹿北町）の多久という場所です。旧黒木町や立花町（いずれも現八女市）から、さほど距離はありません。

しかし『家勤記得集』には間違いなく豊後国多久と記されており、短絡的に「豊後国は肥後国の誤りだ」と断定するには、いまだ資料不足といわざるを得ません。

臣の娘を娶つて一子をなし、長じて長延七兵衛と名乗り室岡村横目を務めます。有馬氏が久留米に入った後は、鵜池村庄屋に就役しています。先月号と一部重複しますが、旧国鉄矢部線の鵜池駅側には、親茂の念持仏と伝えられる地蔵菩薩のほか、妻有積氏女と刻されている城後氏の先祖社祠もあります。

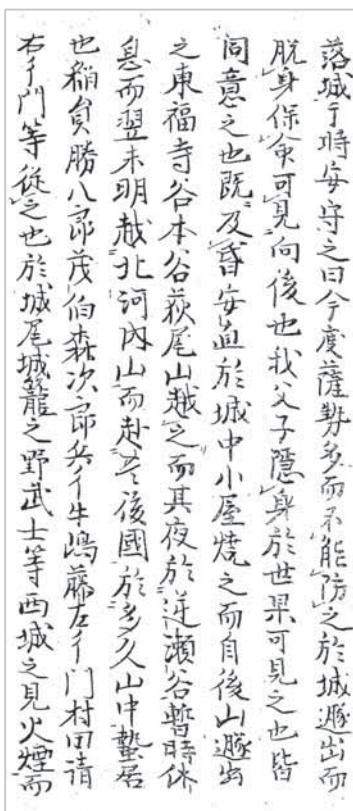
長延村にあつたという山王山城・城ノ尾城どちらも、果樹園造成などにより、残念ながらその城跡はほとんど痕跡を留めていません。

山王山城と城後親茂

先月号で、城後主殿頭親茂（とのもののかみ）と山王山城との関りに触れましたが、若干の補足をしておきます。

（広川町郷土史研究会）

親茂は有積丹波（甘木氏家



長延村の山王山・城ノ尾落城と、稻員安守・安直父子が豊後国多久へ逃げるときの記述(家勤記得集、小川志純写本・高良大社所蔵)

### 広川町古墳資料館だより

博物館や美術館にとつて、虫類は大敵です。資料館でも、弘化谷古墳レ

プリカや展示ケース内に虫類が侵入するなどの被害が出ています。

近年、かけがえのない文化財をやさしく守るため、「IPM（総合的有害生物管理）」という考え方が提唱されています。有害生物の監視と防除施工、環境整備、改善などが一体となつた手法で、薬剤などの環境負荷を最小限にすることを目的としています。

多くの文化財・貴重資料が保存されている九州国立博物館では、建築中からIPMを取り入れて実践しています。

資料館でも、玄関ドア下部にブランシングをつけたり、粘着トラップを設置したり（虫類の種類や侵入経路を見つけるため）と、防虫対策を検討しています。

